

第10回「ふくい知財フォーラム」セミナー 事業報告書

1. 研究会・講演会等名称 第10回「ふくい知財フォーラム」セミナー — 地域知財を通じた知と技の融合・連携づくり —
2. 開催日時 令和元年11月26日（火） 13:30～16:40
3. 開催場所 福井大学総合研究棟 I 13階大会議室
4. 開催内容 福井大学および県内各大学と公設機関は、知財を軸とした人的ネットワークを構築し産学官連携を通じたイノベーションの創出を牽引すべく、県内大学や試験研究機関における研究成果の企業への技術移転の促進を図るための組織「ふくい知財フォーラム」を結成している。その活動の一環として、第10回「ふくい知財フォーラム」セミナーを開催した。 10周年の節目を記念して、今回のセミナーでは、「伝統的産業と異分野融合」を大きな柱として、福井の伝統産業である「繊維」と、「医学」および「IoT」という異分野融合の成功例、またそこで生み出された知財の活用戦略に関する講演会を実施した。 最初に、近畿経済産業局地域経済部産業技術課知的財産室 川上佳室長、および福井経編興業株式会社 高木義秀代表取締役社長から、各々ご挨拶を頂戴した。川上氏からは、「持続的経済発展に向けた知的財産制度の役割」と題し、イノベーション創出におけるデザイン経営の重要性やそれを支援する国の制度等についてご紹介頂いた。また、高木氏からは、「衣料から医療へ」と題し、「下町ロケット ガウディ計画（池井戸潤／著、小学館）」のモチーフにもなった、自社で開発を進めている心・血管修復パッチを例に、ニーズ主導の技術開発の重要性や、異分野融合における大学が果たすべき役割等、期待の言葉を頂いた。 続いて、講演第1部では、「繊維」と「医学」の異分野融合の成功例として、大阪医科大学 根本慎太郎専門教授、ならびに内田・鮫島法律事務所 鮫島弁護士・弁理士にご講演いただいた。根本氏には、「ニットに辿り着いた、ニットで走り出した」と題して、医療現場のニーズを元に、実際に福井経編興業（株）と心・血管修復パッチを共同で開発し、実用化間近に繋げるまでのストーリーを講演頂き、ニーズから商品開発を行うためには、そのニーズに対してどのような課題があるか抽出・整理することが成功を左右するとお話し頂いた。また、鮫島氏には「下町ロケットの弁護士が語る～ニッチトップになるための知財活用戦略

～」と題して、技術の収益化と知財戦略の関係性について講演頂き、特にオープンイノベーションにおいて中小企業が武器とする知財の戦略的な使い方やその副次的効果をご教示頂いた。

講演第2部では、「繊維」と「IoT」の異分野融合の成功例として、ミツフジ株式会社 三寺歩代表取締役社長から、「伝統産業からウェアラブルリーディングカンパニーへ」と題してご講演頂いた。講演の中で、事業承継後、銀繊維一本に絞り、事業立て直し～新事業立ち上げに至った理念や、大企業がひしめく IoT 業界で中小企業が生き残るためには、自社が保有する核となる技術を磨き、ニッチな技術を武器に、大企業と連携するといったビジネス戦略についてお話し頂いた。続いて、本学産学官連携本部 樋口人志特命教授から「伝統的産業と異分野融合におけるふくい知財フォーラムの取り組み」をテーマに、大学・公設試等がかかわった事例の紹介や、異分野融合を進める上での取り組み等について、ふくい知財フォーラムの目指す姿と具体的活動の報告とを紹介した。

なお、講演会場前のスペースでは、各関係機関（福井大学、福井工業大学、福井工業高等専門学校、福井県工業技術センター、若狭湾エネルギー研究センター、ふくい産業支援センター、発明協会など）の研究内容、支援内容等のリソースを紹介したパネルが展示され、パネル前では関係者ならびに参加者が活発な意見交換を行った。

今後、県内各関係機関との連携を維持するとともに、今回のアンケート結果を参考にし、知的財産の人的ネットワーク構築のための知財勉強会の開催、配布した県内各関係機関の実施許諾可能な特許リストの内容補充等を図りつつ、産官学の一層の連携強化に努める。

なお、参加人数は計 173 名（企業 113 名 関係機関 28 名 学内 32 名）と、昨年度の2倍であった。

第10回ふくい知財フォーラムセミナー
 ― 地域知財を通じた知と技の融合・連携づくり ―

